

(様式)

平成25年度 津山市立高野小学校 学校評価書

校長 吉竹正夫



1 自己評価

I 評価結果

学力の向上を目指し、グループでの協同学習を進めてきたが、児童からは、「授業がわかりやすい」、「友達と仲良く生活している」などの項目で高い評価結果となった。

また、保護者からは、「学校は授業参観や学校公開など、交流の機会を多く持っている」、「楽しく学習に取り組める指導ができている」などの項目で評価が高かった。

II 分析・改善方策

学力の向上を目指して協同学習を行ってきたが、友達との人間関係や、コミュニケーション能力の育成にも成果が現れてきている。また、保護者からは、学校に親しみを持つとともに、安心して子どもを学校に通わせていることがうかがえる。

今後は、協同学習の研究を進めるとともに、基礎的・基本的な学力の定着をより一層図るよう取り組んでいきたいと考えている。

2 学校関係者評価委員会

- 学校評議員が学校関係者評価委員を兼ねている。

河本啓二 氏 (高野連合町内会長)

高橋寿治 氏 (元PTA会長)

松本静江 氏 (愛育委員高野支部)

仲矢武夫 氏 (民生児童委員)

近藤恭介 氏 (高野公民館長)

高橋哲也 氏 (元PTA会長)

早瀬 充 氏 (前PTA会長)

竹林美和 氏 (PTA会長)

3 学校関係者評価

- 評価委員会では、学校教育目標の具現化に向け、様々な教育活動を通して、子どもが着実に育っていることを高く評価していただいた。また、学校が保護者や地域の人と交流する機会を多く持ち、地域の教育力を生かしている点なども評価していただいた。

今年度の指導の重点である「しつけの徹底と学び合いの推進」の取組についても、効果があがっているという評価をいただいた。

また、保護者評価で、肯定的な評価が8割を超えていて、学校の取組が保護者に理解され、評価されている、今後も継続して努力してほしいと激励された。

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

- 学校教育目標については、学校だけではなく、家庭や地域と協力して具現化を図っていききたいと考えている。そのためには、学校は、情報を発信することだけではなく、積極的に地域の教育力を取り込んでいくことが必要だと思う。

また、目指す子ども像、学校像、教職員像をさらに具体化し、全教職員で目指す方向に力を結集させていこうと考えている。

- 本年度の指導の重点である「しつけの徹底と学び合いの推進」については、効果が上がってきていると感じているが、指導を少しでもゆるめると、学習規律や社会的なマナーなどが、すぐに元に戻ってしまう危険性がある。全教職員で共通理解を図り、今後とも継続して指導していくことが大切であると考えている。